

③ 「未来をけん引・北海道人」プロジェクト

～ 未来をけん引する人づくり ～

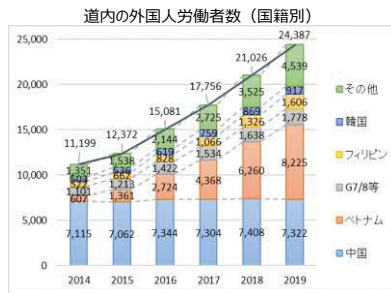
これまでの主な取組

◆外国人材の受入拡大と共生

- 外国人採用基礎セミナーを開催（R1：道内6カ所、計308名参加）したほか、外国人材採用事例集の作成、外国人材と企業の交流会の開催（R1：札幌市内にて2回、計外国人43名・企業16社参加）
- R1年8月に「北海道外国人相談センター」を設置し、多言語による相談対応や道内12地域での移動相談会を実施

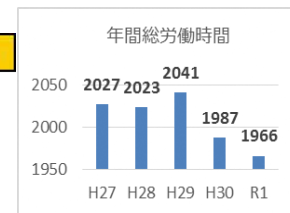
◆産業人材の育成・確保

- 各種イベントを活用したものづくり産業の魅力PR（No Maps、札幌E-タージョー）
- 農林水が一体となり道内の各高校生を対象とした出前講座や、首都圏での移住相談会への参加など、本道一次産業の魅力のPR



◆北海道働き方改革推進企業認定制度

- 働き方改革に取り組む企業を、働き方改革の取組の熟度に応じて、北海道働き方改革推進企業として4つのグレードで認定



2020年度の推進方向

これからの北海道をけん引

◆地域づくりにチャレンジしている方々のネットワーク化

- 地域が抱える課題の解決や地域の特性を活かした地域づくりを推進するため、各地で地域づくりにチャレンジしている方々の業種や地域を越えたネットワーク化等

◆キャリア教育や産業教育の推進

- グローバル人材を育成するため、高校生が自ら考え、地域の課題の解決に主体的に取り組む教育活動を通して、キャリア教育や産業教育を推進
- 農林水産業や建設産業を担う後継者の育成を目的とした、本道の基幹産業等への関心を高める総合的なインターンシップの実施等

◆ふるさとの自然や歴史、伝統、文化、産業等に関する教育の充実

- 郷土を愛し、発展させていこうとする気持ちを育むため、本道の自然や文化、観光、産業などの教育資源を活用した学習や、北方領土やアイヌの人たちの歴史や文化などに関する学習の充実等



札幌農学校

◆大学等と連携した「北海道若者活躍プロジェクト」による若者定着の推進

- 大学等と自治体、産業界が相互に連携・協力し、道内における雇用創出・若者定着を推進

様々な分野をけん引

◆農林漁業を支える人材の確保

- 農林漁業を支える人材を確保するため、先輩業者によるジョブセミナーや就業希望者の意向に沿った就業実習の機会の提供等



農業

漁業

林業

◆北の森づくり専門学院をはじめ森林づくりの担い手対策

- R2年4月設置の「北の森づくり専門学院」による担い手の育成、木育の推進等



Institute of Northern Forestry
北海道立北の森づくり専門学院



◆ものづくり企業における技術系人材の育成

- ものづくり企業の販路拡大や新分野進出を促進するため、IoT技術や生産管理などの技術系人材の育成強化のほか、専門家派遣による課題解決や成功モデル創出等

あらゆる立場・世代がけん引

◆多様な人材の活躍に向けたきめ細やかな支援

- 新型コロナウイルスの影響等により、離職した方々の再就職を支援するため、ジョブカフェ・ジョブサロン北海道のカウンセリング体制を拡充するほか、Webによる企業説明会等を実施
- オンラインサービスを活用した若年者の就職活動及び企業の採用活動を支援等

- 女性・高齢者・障がい者等の潜在労働力の新規就業促進・定着に向け、求職希望者の掘り起こしや企業の柔軟な就業環境整備を行うコーディネーターを派遣
- 障がい特性を踏まえた就労の場の確保や工賃水準の向上支援のため、障がい者就労施設等の農業への参入支援のための専門家の派遣や認知度向上のためのマルシェの実施
- 企業の人手不足解消に向けた若年者、女性、中高年齢者、外国人材等の多様な働き手の就業促進のため、求職者と企業のマッチング事業を実施等

◆働き方改革の推進

- 中小企業等の就業環境改善を促進するため、地域企業へハズオン支援（専門家の派遣）を実施
- 北海道働き方改革推進企業認定制度の運用による認定企業に対する様々な優遇措置の提供
- 長時間労働の抑制や年次有給休暇の取得促進に係る普及啓発ならびに支援制度の活用促進等



④ 「北海道らしい関係人口の創出・拡大」プロジェクト

～ 北海道を応援するあらゆる人たちの関わり・つながりの創出 ～

これまでの主な取組

北海道ファン獲得に向けた取組の推進

◆ほっかいどう応援団会議の発足

- 道や市町村が応援を求める取組や、応援団会議参加企業の応援実績等を一元的に発信するポータルサイトや公式SNSを開設し、戦略的に情報を発信（R1.9～）
- 知事、市町村長が道内外の企業等に対し、地域の魅力や応援を求める取組をPRする場として「ほっかいどう応援セミナー」を開催（R1.9 東京、R2.1 大阪）

北 エールを北のチカラに。
ほっかいどう応援団会議



応援セミナーの開催

ポータルサイトでの発信



◆移住・定住の促進と連動した取組

- 将来的な移住につなげるため、首都圏等において、「しごと」「住まい」「暮らし」の情報を一元的に発信するワンストップ窓口を運営（ふるさと移住定住推進センター（どさんこ交流テラス） R1年度相談件数1,610件）
- 首都圏の若者が気軽に北海道の「暮らし」や「しごと」の情報を入手し、相談や意見交換ができる「北海道とつながるカフェ」を東京都内で開催（H30：9回、R1：8回）

東京交通会館を北海道の情報拠点として、ワンストップサービスを実現（1F、3F、8Fで連携）



どさんこ交流テラス(8F)



どさんこ旅サロン(3F)



どさんこプラザ(1F)



北海道とのつながりを紹介するパンフレット

2020年度の推進方向

感染症拡大による首都圏企業や人々の意識・行動の変化を的確に捉え、新しいひとの流れの創出・拡大を図る

感染症拡大による 人々の意識・行動の変化

- 東京圏一極集中のリスクを再認識
- リモートワーク等の働き方の変化
- 地方移住への関心の高まり 等

都市住民
(特に若者)

首都圏企業等

東京圏
一極集中の是正

戦略的アプローチを展開

ほっかいどう応援団会議の
ネットワークの活用をはじめ、
市町村や関係団体等と連携

都市住民
向け

首都圏
企業向け

◆ウィズコロナに対応した移住・定住の促進

- 都内のワンストップ相談窓口に加え、オンライン移住相談窓口を新設

◆北海道らしい関係人口への誘い

- 首都圏の若者をターゲットとし、将来的な本道への移住に向けた意見交換や相談等が気軽にできる「北海道とつながるカフェ」をオンラインで開催
- 北海道を応援する企業等と連携し、北海道との関わり方をPRするオンラインイベントの開催
- 入口の段階から関心層へのステップアップに向けた動画コンテンツの充実等による情報発信力の強化

◆サテライトオフィス等地域拠点誘致、北海道型ワーケーションの展開

- 首都圏企業のニーズ調査及び道内市町村等の受け入れ側の意向調査を実施
- 首都圏企業を対象に、サテライトオフィスと遠隔地型テレワーク拠点の誘致活動を積極的に展開
- 北海道ならではのワーケーションプランの検討など、道内市町村と共同で北海道型ワーケーションを普及・展開

◆道内版関係人口の創出・拡大

- 道内市町村の課題解決に向け、ウェブ等を活用して市町村と地域に関心を持つ札幌市民等をつなぐ仕組みを構築

◆高校生の「地域留学」の促進

- 地域と連携して特色ある教育環境の整備などを進め、全国の高校生を地域留学により受け入れ



⑤ 「北海道 Society 5.0」プロジェクト

～ 未来技術による施策の効率化・効果の最大化 ～

これまでの主な取組

◆北海道Society5.0懇談会（R1.10設置）

- 人口減少や高齢化の急速な進行に伴う労働人口の減少や地域における医療・教育の確保、経済のグローバル化に対応した産業競争力の向上など、本道が直面する様々な課題を未来技術を活用して解決し、活力ある北海道の実現に向けた取組を進めるため、学識経験者や民間事業者、行政機関などからなる懇談会を設置し、未来技術を活用した北海道の未来社会の姿を示す「北海道Society5.0構想」を策定。

◆スマート農業の推進

- 北海道スマート農業推進協議体の設置（H28～、約200団体・個人）、スマート農業セミナー（H29～、延べ約750名）、農作業機実践研修（H29～、延べ約150名）等を実施



測位システムを活用した無人トラクター
(北海道大学)

◆自動運転の通年実用化に向けた取組

- 北海道自動車安全技術検討会議の開催（H28～）
- 全国初のワンストップ相談窓口の設置（H28～、相談件数：248件）
- 実証適地データベースによる情報提供 等



2020年度の推進方向

ICT技術の導入加速化

◆北海道IoTの普及推進

- IoTを活用した北海道特有の地域課題の解決を促進するため、ほっかいどう応援団会議などを活用した企業と道内市町村とのマッチングや、企業への支援 等



◆ITを活用して感染症の危機を乗り越える

- 道内IT関連団体との連携により、新型コロナの感染拡大防止から感染終息後を含めて様々な困難な状況の中でテレワークの導入をはじめ企業経営をサポートする道内 I T 技術を取りまとめ紹介 等

暮らしの質を高める

◆遠隔医療・遠隔授業の充実

- 都市部の専門医が、遠隔地の医師に指導・助言を行うことができるよう遠隔TVカンファレンスシステム等の設備整備の支援
- 郡部の小規模校においても、大学進学等に必要の学習ができるよう、地域連携特例校等に多様な教科・科目を効果的に配信することのできる環境を整備 等



遠隔授業配信を集約化

◆介護ロボット導入支援

- 介護職員の労働環境を改善し介護人材を確保するため、業務負担軽減等のための介護ロボットや I C T 機器の普及を促進 等



◆北海道型MaaSの展開

- 利便性が高くストレスのない移動の実現を目指し、MaaSの展開に向けた検討を進め、地域住民向けMaaSの実証実験を実施 等



価値と魅力を高める

◆スマート農林水産業の展開

- ICTやロボット等の先端技術を活用したスマート農業の実践研修や農業者への普及、スマート林業の現地実演や林業事業者での試行支援
- 生産量が減少しているコンブの生産増大を図るため、ICT技術等を活用した漁場の把握手法や生産工程の自動化モデルの開発 等

◆効果的な獣害対策の実施

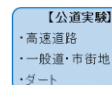
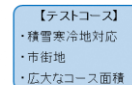
- モデル地域においてICTを活用したアライグマの捕獲プログラムの実証・作成、市街地周辺に出没するヒグマ対策の検証 等



市街地に出没するヒグマ

◆自動運転の開発拠点化促進

- 研究開発拠点化を図るため、実証試験等の誘致や本道に適した積雪寒冷対応システムの検討、ワンストップ相談窓口を通じた情報提供の強化 等



人づくりの効果を高める

◆情報活用能力を育む教育の充実

- 「GIGAスクール構想」を推進するため、道立学校のネットワーク環境を整備や児童生徒1人につき1台のPC整備、オンライン学習環境の整備 等

2 地域戦略の取組方向

～道と179市町村のスクラムをより一層強化～

◎ 空知地域

◆ 未来技術の導入などによる産業の振興、担い手の確保

- 新たな技術の活用による農業生産の省力化やコスト削減、空知のブランド力の向上に結びつくような技術実証と普及、将来の農業・食関連産業を支える人材の育成
- 空知産ワインの産地形成を強化するため、ワイン造りに携わる人材を対象に研修会を開催するほか、「そらちワインガイド」を発行 等

◆ 地域の歴史や資源を活かした空知の魅力発信

- 日本遺産「炭鉄港」の理解を高めるため、鹿児島県とのオンライン交流やウェルカムボードのデザイン作成、土産品の開発や旅行商品の造成などの実施
- 空知の魅力を訴求する空知観光マップを作成するほか、台湾のインフルエンサーを活用した情報発信、SNSを活用したフォトコンテストやキャンペーンなどを実施 等

◆ 空知と多様な形で関わりを持つ人材の創出に向けた取組の推進

- 空知にゆかりのあるヒトや企業へのPR、子育て世代を対象とした空知のアクティビティスポットや移住・定住支援施策を紹介するテーマ別PR冊子などの作成
- **新型コロナウイルスの状況を見極め、管内自治体との連携や管内に所在する3つの大学との交流なども視野に入れながら、シビックプライド醸成のための事業を展開 等**

◎ 後志地域

◆ 農林水産業の持続的発展やブランド化の推進

- GPSガイダンスシステムや自動操舵の活用、ドローンのリモートセンシングの実証など、管内の経営体系に応じたスマート農業のあり方を検証し、後志モデルを構築
- 管内水産物のPRや販売促進を目的に管内飲食事業者や一般消費者向け産地市場見学会を**新型コロナウイルス感染防止に十分留意し実施**
- 管内飲食店のテイクアウトや生産者による通販情報等を取りまとめ、SNSを活用した情報発信 等

◆ 国際観光リゾートエリアを活用した広域観光の展開

- マウンテンバイクの夏の観光コンテンツとしての磨き上げやアドベンチャーツーリズムの情報発信
- 後志の自然と食の魅力を活かしたツーリズムを推進し、観光誘客につなげるため、動画サイト（日・英）作成による管内コンテンツの紹介やネットを活用したキャンペーン等の実施 等

◆ 人口減少社会に対応した活力あるまち・ひと・しごとづくりの推進

- インバウンド・多文化共生先進地である後志は、SDGs先進地にもなり得るという地域特性を活かし、SDGsのターゲット4.7で指標とされている「グローバル・シチズンシップ」の育成への取組
- 多様な人材が活力を持って働く場所（グローバル・ワークプレイス）の確立に向けた、マッチング対応窓口の設置や、人材確保のためのオンラインセミナーの実施 等

◎ 石狩地域

◆ 子育てを地域で支える環境づくりと育児に優しい企業を増やす取組の推進

- 新型コロナウイルスの状況を見極め子育て支援拠点の職員を対象としたセミナーの開催や、市町村・拠点職員のネットワーク形成に向けた会議の開催
- 「仕事と家庭の両立支援ハンドブック」などを活用した団体・企業等への周知 等

◆ 若者の地元定着などの取組

- 仕事だけではなく私生活についても圏域で豊かに暮らすイメージや地域情報の提供を行う「いしかり・ライフスタイルパンフレット」の製作、移住見学相談会のオンライン開催
- 学生の視点に基づいた、課題解決を行う取組を契機とした地元企業と大学との連携の強化 等

◆ 都市と自然とが共存する石狩観光スタイルの推進と石狩の食の魅力のブランド化

- 新型コロナウイルスの影響を受けているいしかり地域を応援するため、地域農水産物等の魅力発信や地域住民の活力向上、北海道スタイルの普及啓発を目的に「いしかり地域応援フェア（仮称）」の開催や、石狩産の花アレンジメントの社会福祉施設への提供
- 管内市町村と連携し、国際的なイベントを契機とした国内外における観光プロモーション活動の展開や「いしかりの食と観光」ガイドブックの作成など石狩管内の食の魅力発信 等

◎ 胆振地域

◆ 交流人口及び関係人口の創出・拡大に向けた官民連携による地域資源の活用

- 「胆振五大遺産マップ」を作成し、道内を中心としたプロモーションを実施
- ウポポイ開業を応援するとともに、管内の周遊や域内消費を喚起する、ウェルカムキャンペーンの実施
- 食と観光のポータルサイトの構築やSNSを活用した発信など新型コロナウイルスの影響を受けている胆振の食と観光を応援 等

◆ 胆振の強みを活かした産業の振興と地域の未来を支える人材の確保・育成

- 胆振産食材の利活用促進及び食のPR・強化のため、胆振産食材を使ったメニューを提供する「いぶりフェア」を新型コロナの状況を見極めて開催
- 高校生等を対象とした地域のものづくり産業に関する説明会等を新型コロナの状況を見極めて開催
- フードロスの可能性のある食品を活用し、子ども食堂等の活動支援につなげるため、関係者による子ども食堂応援会議を設置 等

◆ 胆振東部地震からの着実な復旧と未来へつなぐ復興の推進

- 被災自治体の高校生に参画してもらい、地域資源（歴史文化資源・郷土芸能・祭り・食資源等）を被写体として、復興・地域資源フォトカレンダーを作成・配付
- 要支援者抽出や支援の検討など被災に係る3町のメンタルヘルス対策への支援、被災住民への健康に係る家庭訪問や相談 等